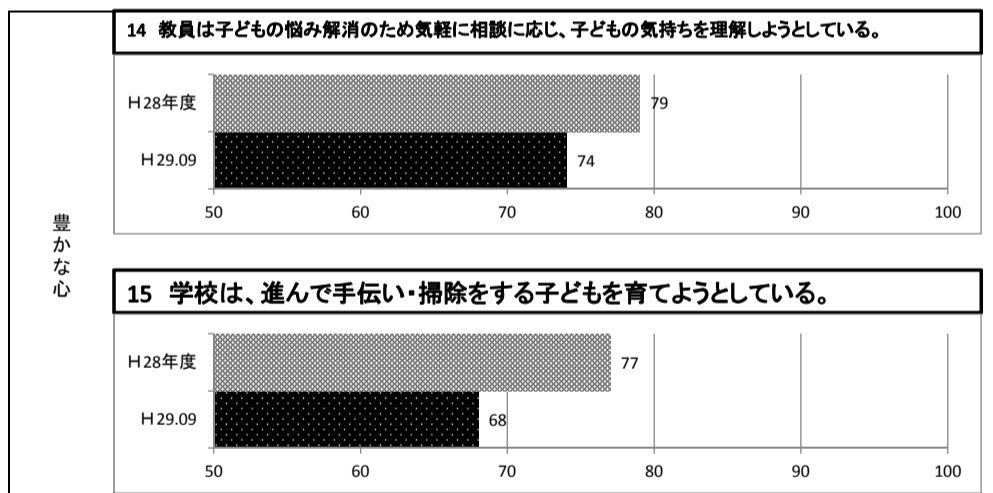
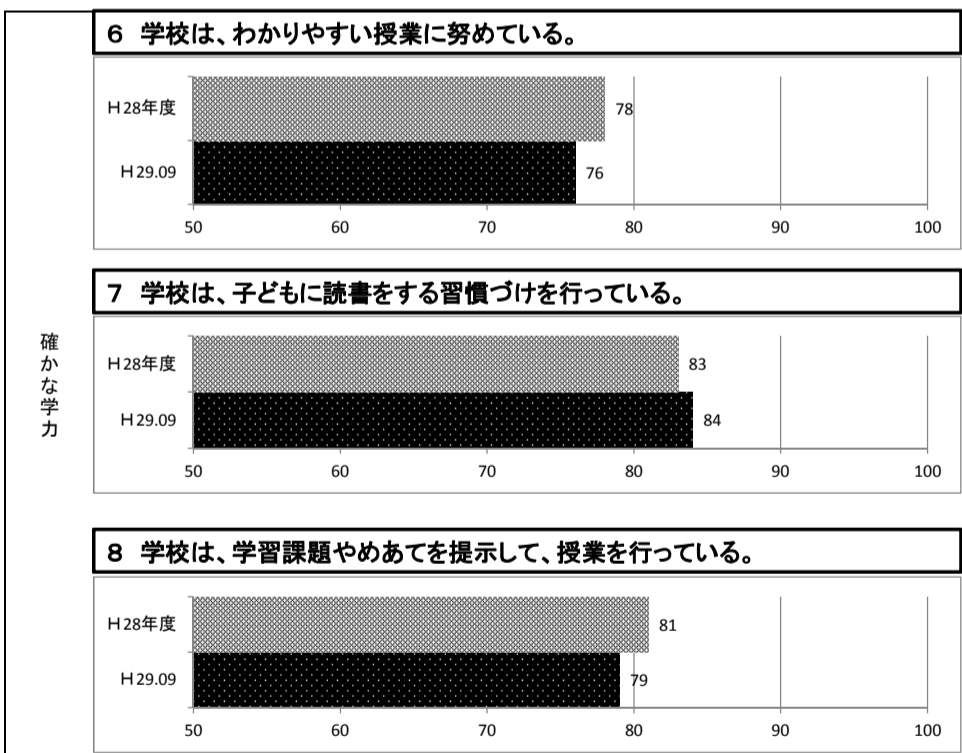
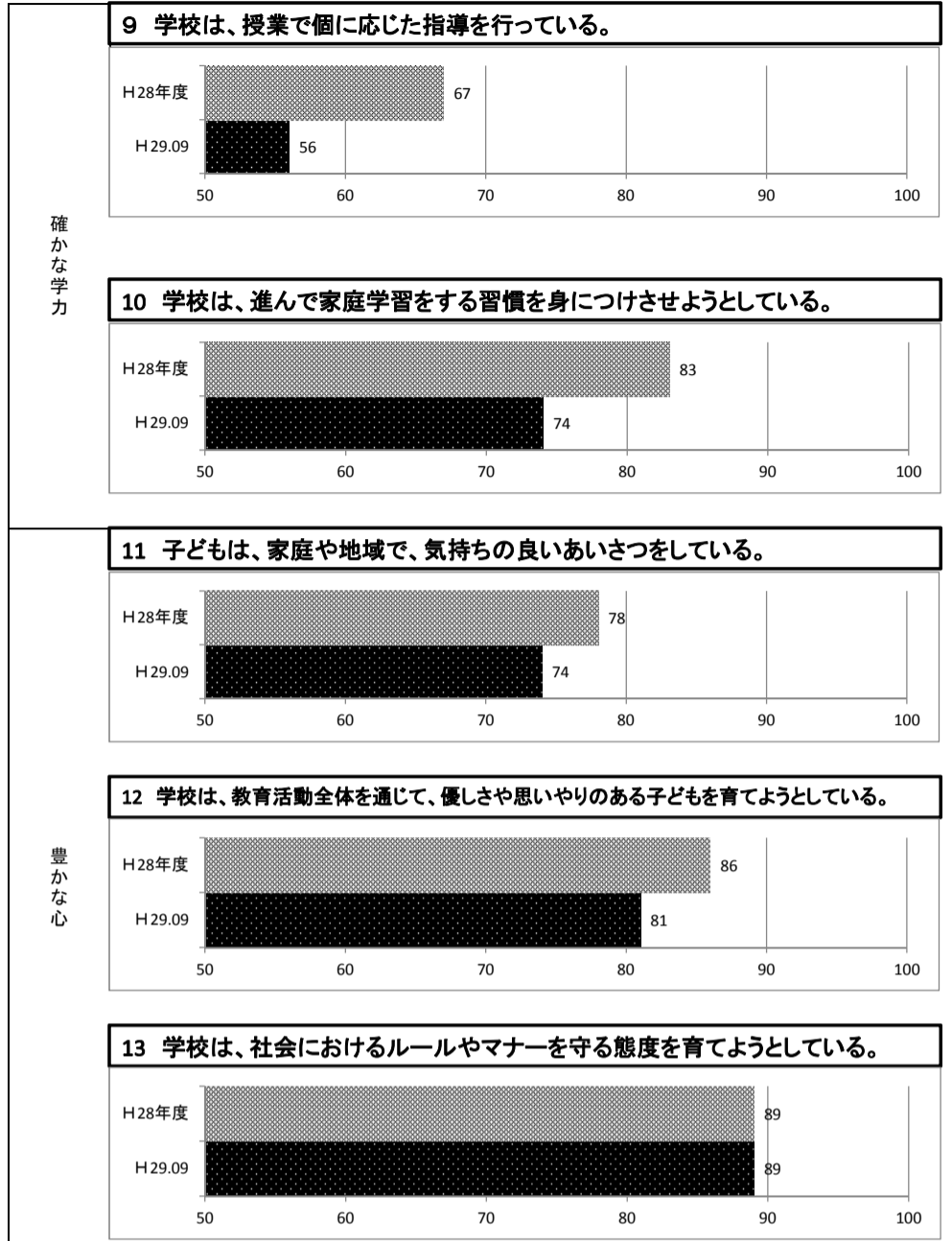
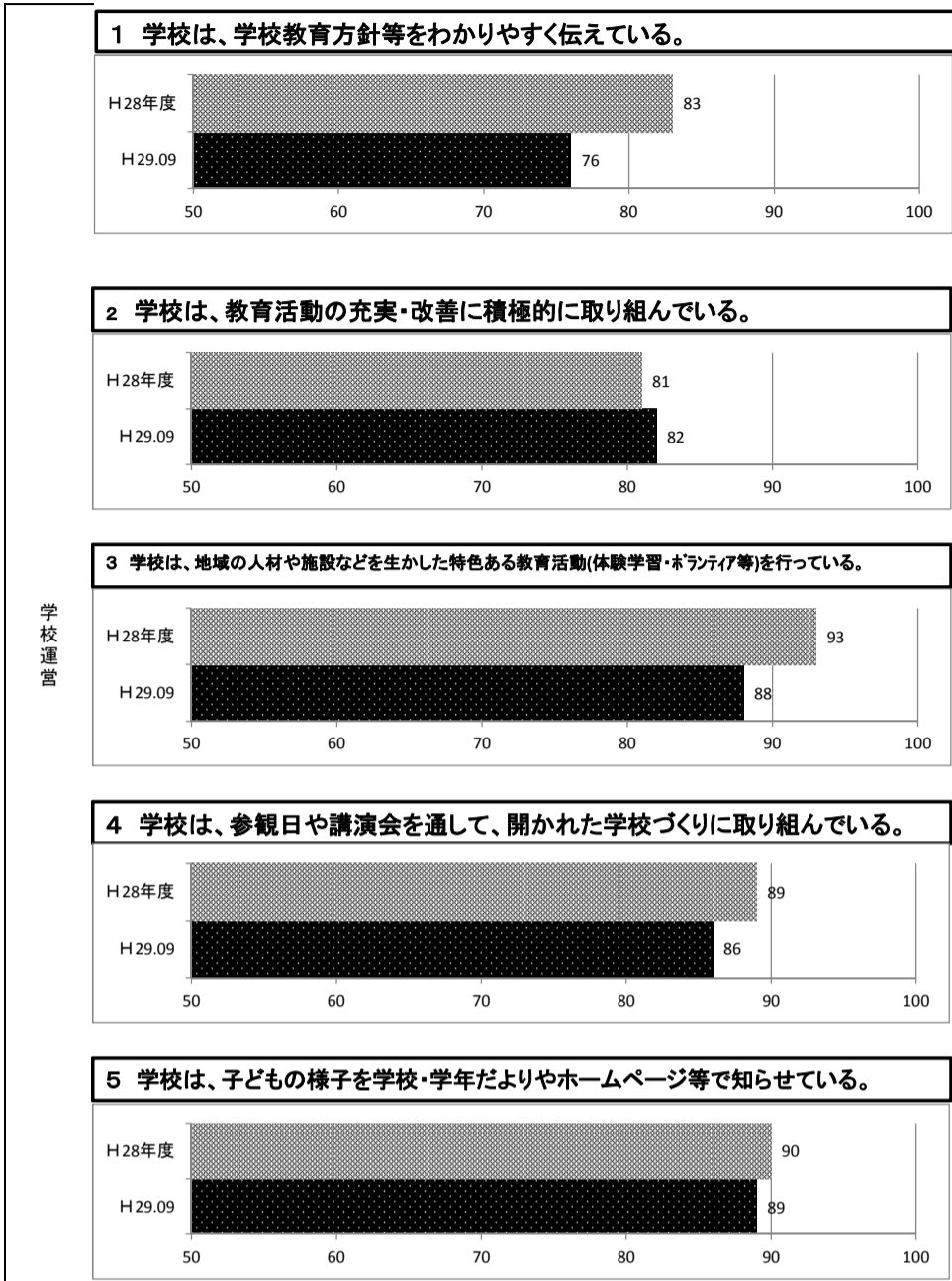


平成29年度 学校評価 保護者アンケート 29年9月実施結果



(考察) 全体的に見ると、8割の項目で、昨年度より低い評価結果となっており、学校の取組の意図が保護者に十分伝わっていないように感じる。生徒アンケートにおいて、「3学校からのプリントを家の人に見せている。」という問いに対して、83%と低い結果となり、全保護者に対して、学校の取組が理解・浸透していないのは事実である。また、学校の取組が、生徒から保護者へ伝わっていないため、「わからない」と回答する保護者が割いる問いもあった。これらを改善するために、生徒の学校での様子を、参観日や講演会、学校行事等に積極的に参加して見てもらう。また、HP、学校だより、学年だより、学級だより等を活用し、生徒の活動を細やかに発信し、必ず家庭で見ってもらうよう徹底していかなくてはならない。

「9学校は、授業で個に応じた指導を行っている。」「10学校は、進んで家庭学習をする習慣を身につけさせようとしている。」において、昨年と比較して低い結果となっている。「学習の手引き」の配付など具体的な取組を、発信していく努力をなくてはならない。生徒アンケートにおいても、「10自分は家庭学習をする習慣が身についている」という問いに対して、82%の生徒しか学習習慣が身についていると答えていない。学校と保護者が互いに協力し合い、学校や家庭で生徒の学習に関わっていき、学習習慣を身につけさせ、学力向上に努めていきたい。

『豊かな心』に関しては、「13学校は、社会におけるルールやマナーを守る態度を育てようとしている」が89%と高く、生徒と教職員は100%の者がルールやマナーを重んじているという肯定的な結果となった。今後も規範意識の高い生徒をより多く育てていくことが、落ち着いた学校生活につながり、思いやりのある温かい学校づくりにつながると考え、継続して取り組んでいきたい。15番の「手洗いや掃除をする子どもを育てようとしている」に関しては、学校における掃除への取組を充実させ、生徒一人ひとりがみんなで使う場所をきれいにするという気持ちを高めていきたい。